

平成29年度前期 目黒区立学校におけるいじめの状況について

(平成29年9月30日現在)

1 いじめの定義

「いじめ」とは、「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの」とする。

2 対象期間

平成29年4月1日から9月30日まで（前年度からの継続事案を含む）

3 (1) いじめの認知件数及び学年別内訳

	年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
小学校	平成29年度	0	3	6	2	4	5	20 (6)
	平成28年度	2	0	2	4	0	2	10 (6)
	平成27年度	0	0	2	4	4	4	14 (7)
中学校	平成29年度	2	2	1				5 (4)
	平成28年度	2	4	1				7 (2)
	平成27年度	5	2	0				7 (3)

※平成28年度・平成27年度の値は、いずれも同年度の同時期の値、また、() はいじめが解消した件数を示している。

(2) いじめの態様（複数回答あり）

	小学校			中学校		
	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度
①冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる	17	10	10	5	6	6
②仲間はずれ、集団による無視をされる	3	2	3	2	0	2
③軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして、蹴られたりする	6	5	3	1	5	1
④ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	2	2	1	0	0	1
⑤金品をたかられる	0	0	0	1	1	0
⑥金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	0	2	3	0	1	0
⑦いやなことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	4	2	1	1	0	2
⑧パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷やいやなことをされる	0	0	0	0	0	3
⑨その他	0	0	1	0	0	0

(3) いじめ発見の端緒(単位:件 単回答)

区 分		小学校	中学校	合 計
学校の教職員等 が発見	ア 学級担任が発見	3	1	4
	イ 他の教職員が発見	0	0	0
	ウ 養護教諭が発見	0	0	0
	エ SC等外部相談員が発見	0	0	0
	オ アンケート調査など学校の取組	3	0	3
学校の教職員以外 の情報により発見	カ 本人からの訴え	1	0	1
	キ 本人の保護者からの訴え	11	4	15
	ク 他の児童生徒からの情報	2	0	2
	ケ 本人以外の児童生徒の保護者	0	0	0
	コ 住民からの情報	0	0	0
	サ 学校以外の関係機関	0	0	0
	シ その他	0	0	0
計		20	5	25

(4) いじめられた児童生徒への特別な対応状況(複数回答)

区 分	小学校	中学校	合 計
①SC等の相談員による継続的なカウンセリング	3	2	5
②別室の提供や教職員が常時付き添い安全確保	4	0	4
③緊急的な避難措置による欠席	0	2	2
④学級担任や他の教職員による家庭訪問	1	2	3
⑤学級替え	0	0	0
⑥教育委員会と連携した対応	1	1	2
⑦児童相談所等の関係機関と連携した対応	0	1	1

(5) いじめる児童生徒への特別な対応状況(複数回答)

区 分		小学校	中学校	合 計
① ＳＣ等の相談員によるカウンセリング		1	0	1
② 校長・副校長による指導		8	1	9
③ 別室指導		0	0	0
④ 学級替え等		0	0	0
⑤ 転学		0	0	0
⑥ 出席停止		0	0	0
⑦ 訓告		0	0	0
⑧ 保護者への報告		16	4	20
⑨ いじめられた児童生徒、保護者への謝罪の指導		13	4	17
関係機関等との連携	⑩ 警察	0	0	0
	⑪ 児童相談所	0	0	0
	⑫ 医療機関	0	0	0
	⑬ その他専門機関	0	0	0
	⑭ 地域の人材	0	0	0

(6) いじめられた児童生徒のその後の状況(単位:件)

区 分		小学校	中学校	合 計
いじめが解消しているもの	新規	4	4	8
	継続	2	0	2
解消に向けて取り組み中	新規	11	0	11
	継続	3	1	4
他校への転学		0	0	0
計		20	5	25

4 平成29年度 無記名式いじめアンケートの実施について

(1) 対象学年

小学校第3学年から中学校第3学年の全児童・生徒

(2) 調査期間

平成29年9月1日(金)から平成29年9月29日(金)まで

(3) 実施方法

教室内での実施を基本とするが、学校の実態に応じて実施方法を工夫する。アンケートの回収は、封筒に入れて提出する等、書いたものが見られないように配慮する。

(4) 調査結果

別紙1から別紙2のとおり

以 上

平成29年度 無記名式いじめアンケート調査結果

別紙 1

小学校

項目		年度・総数	年度	現3年生	現4年生	現5年生	現6年生
				H29 1458人 H28 調査なし H27 調査なし	H29 1499人 H28 1471人 H27 調査なし	H29 1433人 H28 1417人 H27 1345人	H29 1392人 H28 1393人 H27 1353人
自分の気持ち	① 学校があまり楽しくない。・楽しくない。	H29	132 (9.1%)	163 (10.9%)	139 (9.7%)	116 (8.3%)	
		H28	— —	123 (8.4%)	141 (10.0%)	111 (8.0%)	
		H27	— —	— —	104 (7.7%)	137 (10.1%)	
	② 相談できる友達がいない。	H29	150 (10.3%)	132 (8.8%)	102 (7.1%)	69 (5.0%)	
		H28	— —	144 (9.8%)	118 (8.3%)	98 (7.0%)	
		H27	— —	— —	129 (9.6%)	131 (9.7%)	
自分の状況	③ 何度も悪口を言われたり暴力を振るわれたりしている。	H29	196 (13.4%)	191 (12.7%)	112 (7.8%)	84 (6.0%)	
		H28	— —	227 (15.4%)	172 (12.1%)	87 (6.2%)	
		H27	— —	— —	200 (14.9%)	193 (14.3%)	
	④ したくないことを無理やりやらされ、嫌な思いをしている。	H29	110 (7.5%)	64 (4.3%)	36 (2.5%)	26 (1.9%)	
		H28	— —	86 (5.8%)	60 (4.2%)	31 (2.2%)	
		H27	— —	— —	78 (5.8%)	74 (5.5%)	
	⑤ メールやSNSなどに悪口や個人情報を書かれ、嫌な思いをしている。	H29	10 (0.7%)	11 (0.7%)	6 (0.4%)	2 (0.1%)	
		H28	— —	11 (0.7%)	7 (0.5%)	4 (0.3%)	
		H27	— —	— —	10 (0.7%)	7 (0.5%)	
	⑥ 自分の持ち物を勝手に使われたり、かくされたりしている。	H29	133 (9.1%)	117 (7.8%)	67 (4.7%)	51 (3.7%)	
		H28	— —	119 (8.1%)	108 (7.6%)	56 (4.0%)	
		H27	— —	— —	129 (9.6%)	143 (10.6%)	
	⑦ 無視されたり、仲間はずれにされたりしている。	H29	138 (9.5%)	113 (7.5%)	62 (4.3%)	36 (2.6%)	
		H28	— —	133 (9.0%)	119 (8.4%)	57 (4.1%)	
		H27	— —	— —	128 (9.5%)	123 (9.1%)	
	⑧ お金を友達に貸したり、あげたりしている。	H29	28 (1.9%)	31 (2.1%)	31 (2.2%)	51 (3.7%)	
		H28	— —	21 (1.4%)	43 (3.0%)	26 (1.9%)	
		H27	— —	— —	39 (2.9%)	29 (2.1%)	
	⑨ 今されている嫌なことについて誰にも相談していない。	H29	154 (10.6%)	109 (7.3%)	55 (3.8%)	64 (4.6%)	
		H28	— —	147 (10.0%)	93 (6.6%)	66 (4.7%)	
		H27	— —	— —	151 (11.2%)	159 (11.8%)	
友達の状況	⑩ いじめられている人を知っている。	H29	157 (10.8%)	135 (9.0%)	99 (6.9%)	92 (6.6%)	
		H28	— —	139 (9.4%)	125 (8.8%)	92 (6.6%)	
		H27	— —	— —	116 (8.6%)	142 (10.5%)	

※H28、H27の数値は、前年度、前々年度の同一集団の数値(例えば、現4年生の場合は前年度の3年生)となっている。

※網掛け部分は、前年度と比較して割合が減少したところを示している。

※①～⑨は実人数であるが、⑩は1人の事案を複数で認知しているケースもあるため、必ずしも実人数とは言えない。

平成29年度 無記名式いじめアンケート調査結果

中学校

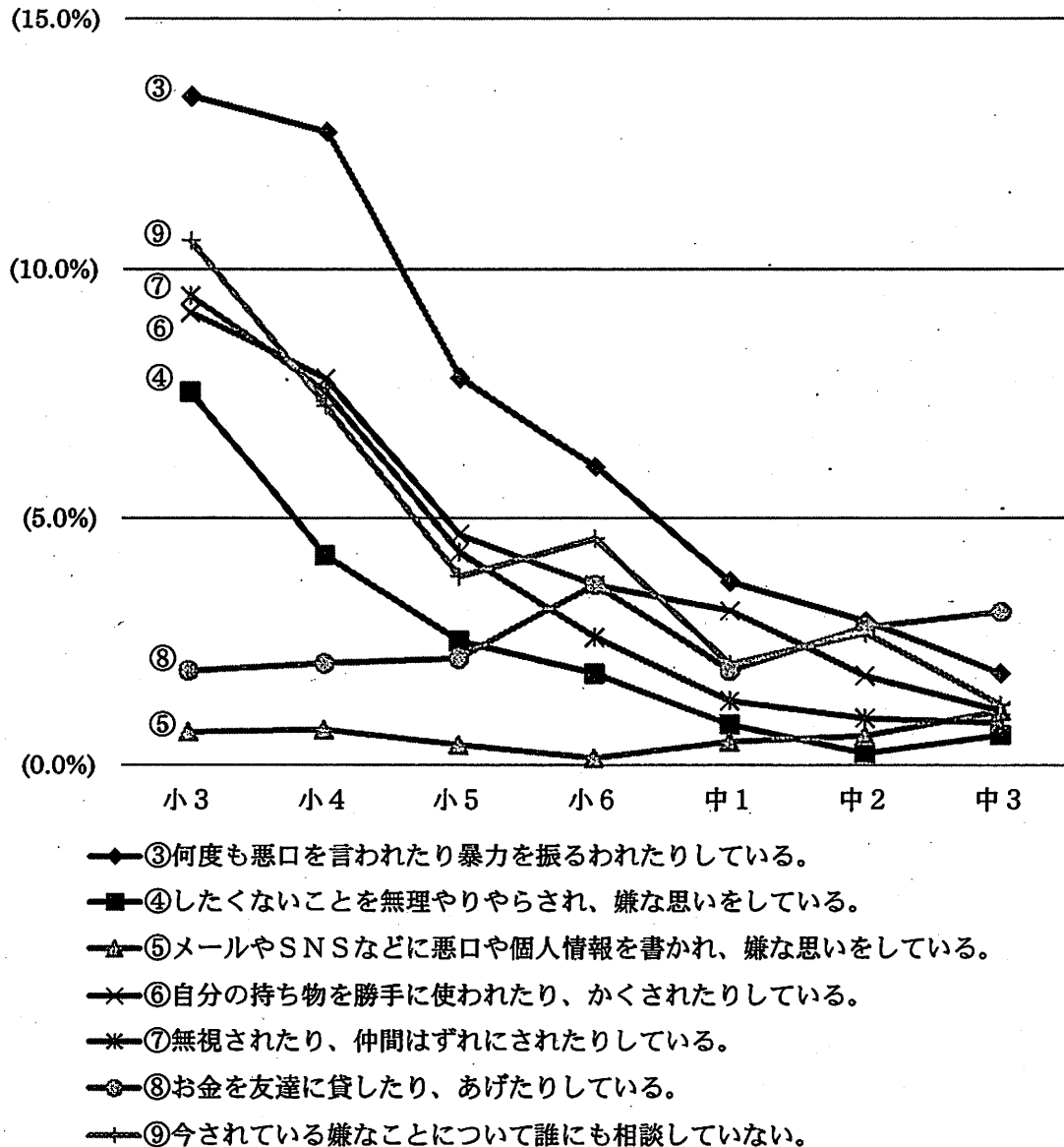
項目		年度・総数	年度	現1年生		現2年生		現3年生	
				H29	831人	H29	824人	H29	804人
				H28	1351人	H28	832人	H28	809人
				H27	1335人	H27	1352人	H27	810人
自分の気持ち	① 学校があまり楽しくない。・楽しくない。	H29	49 (5.9%)	86 (10.4%)	100 (12.4%)				
		H28	133 (9.8%)	85 (10.2%)	103 (12.7%)				
		H27	133 (10.0%)	146 (10.8%)	72 (8.9%)				
	② 相談できる友達がいない。	H29	40 (4.8%)	44 (5.3%)	48 (6.0%)				
		H28	76 (5.6%)	54 (6.5%)	65 (8.0%)				
		H27	110 (8.2%)	113 (8.4%)	51 (6.3%)				
自分の状況	③ 何度も悪口を言われたり暴力を振られたりしている。	H29	31 (3.7%)	24 (2.9%)	15 (1.9%)				
		H28	110 (8.1%)	48 (5.8%)	34 (4.2%)				
		H27	147 (11.0%)	139 (10.3%)	46 (5.7%)				
	④ したくないことを無理やりやらされ、嫌な思いをしている。	H29	7 (0.8%)	2 (0.2%)	5 (0.6%)				
		H28	45 (3.3%)	12 (1.4%)	11 (1.4%)				
		H27	63 (4.7%)	42 (3.1%)	15 (1.9%)				
	⑤ メールやSNSなどに悪口や個人情報を書かれ、嫌な思いをしている。	H29	4 (0.5%)	5 (0.6%)	9 (1.1%)				
		H28	21 (1.6%)	10 (1.2%)	6 (0.7%)				
		H27	6 (0.4%)	14 (1.0%)	5 (0.6%)				
	⑥ 自分の持ち物を勝手に使われたり、かくされたりしている。	H29	26 (3.1%)	15 (1.8%)	9 (1.1%)				
		H28	71 (5.3%)	30 (3.6%)	26 (3.2%)				
		H27	156 (11.7%)	157 (11.6%)	40 (4.9%)				
	⑦ 無視されたり、仲間はずれにされたりしている。	H29	11 (1.3%)	8 (1.0%)	7 (0.9%)				
		H28	52 (3.8%)	22 (2.6%)	10 (1.2%)				
		H27	102 (7.6%)	88 (6.5%)	21 (2.6%)				
	⑧ お金を友達に貸したり、あげたりしている。	H29	16 (1.9%)	23 (2.8%)	25 (3.1%)				
		H28	54 (4.0%)	30 (3.6%)	32 (4.0%)				
		H27	57 (4.3%)	74 (5.5%)	24 (3.0%)				
	⑨ 今されている嫌なことについて誰にも相談していない。	H29	17 (2.0%)	22 (2.7%)	10 (1.2%)				
		H28	83 (6.1%)	38 (4.6%)	16 (2.0%)				
		H27	206 (15.4%)	144 (10.7%)	58 (7.2%)				
友達の状況	⑩ いじめられている人を知っている。	H29	32 (3.9%)	18 (2.2%)	12 (1.5%)				
		H28	100 (7.4%)	68 (8.2%)	30 (3.7%)				
		H27	106 (7.9%)	154 (11.4%)	50 (6.2%)				

※H28、H27の数値は、前年度、前々年度の同一集団の数値(例えば、現2年生の場合は前年度の1年生)となっている。

※網掛け部分は、平成27年度と比較して割合が減少したところを示している。

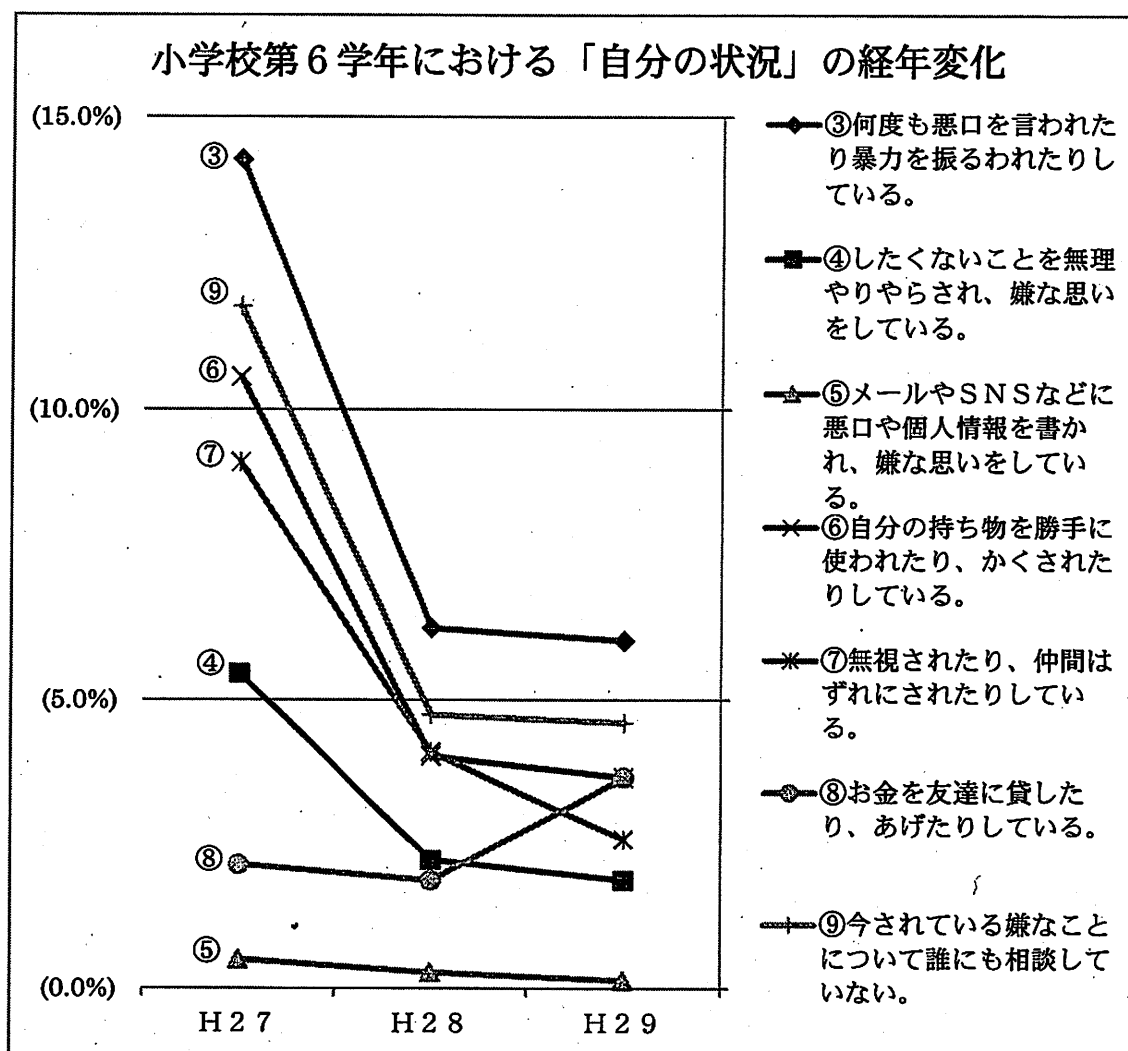
※①～⑨は実人数であるが、⑩は1人の事案を複数で認知しているケースもあるため、必ずしも実人数とは言えない。

平成 29 年度における発達段階別児童・生徒の状況



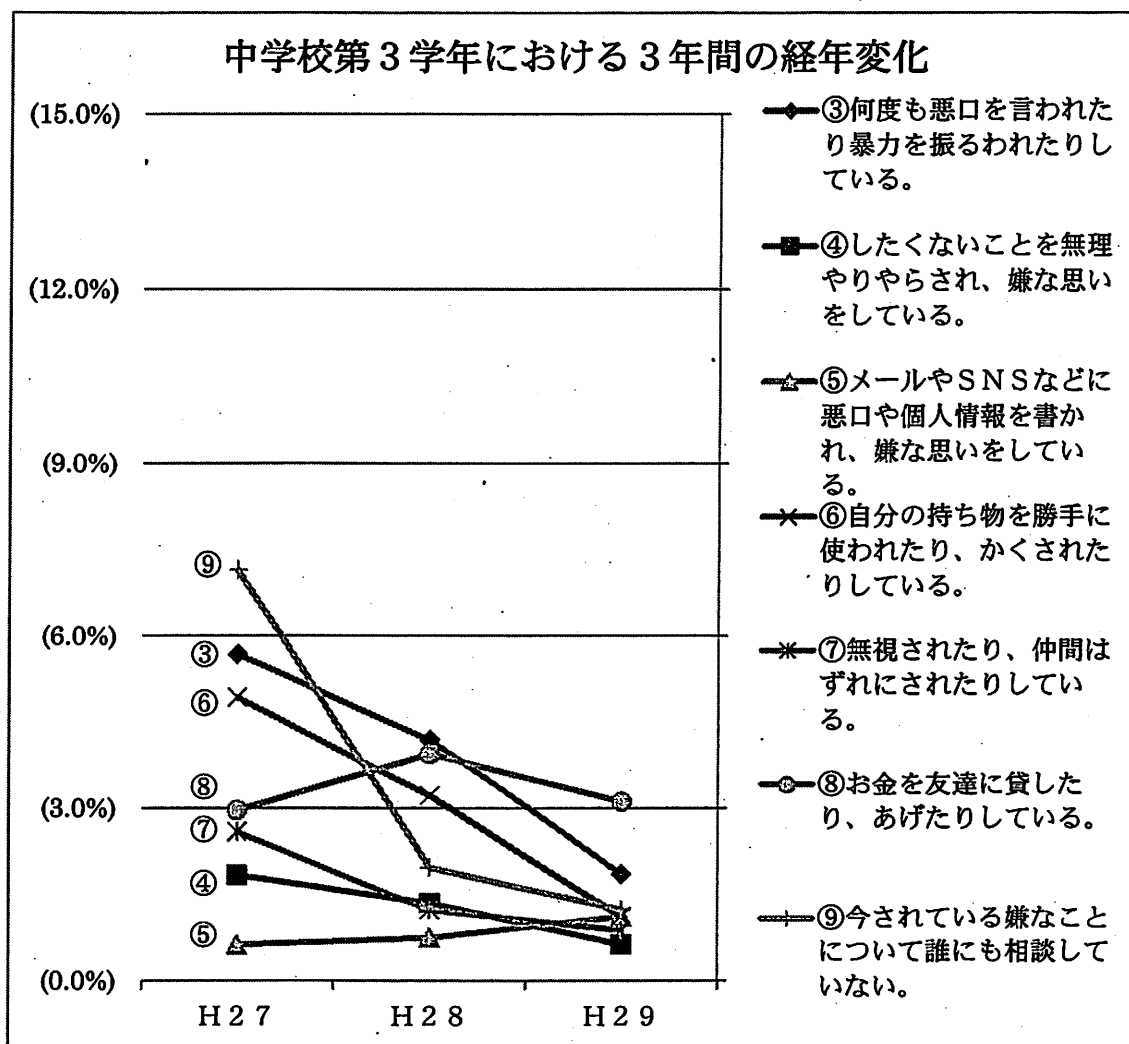
<分析・考察>

- ・③から⑧の嫌な思いをしていることを示す自分の状況については、発達が進むに従って、概ね減少している。いじめの態様として最も多い「③何度も悪口を言われたり暴力を振るわれたりしている」と回答する児童・生徒の割合は、顕著に減少している。目黒区においては、「いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議」をはじめ、様々ないじめ防止に係る取組を推進しており、発達の進行に合わせて取組が浸透し、いじめに向かわない態度が育まれていることを示しているものと考えられる。
- ・「⑨今されている嫌なことについて誰にも相談していない」と回答している児童・生徒の割合は、学年進行にあわせて顕著に減少している。スクールカウンセラーによる全員面接等、相談先を提示し、誰でもよいので相談することが大切であることを繰り返し伝えていること等、児童・生徒が相談できる場を設定している取組の効果と考えられる。引き続き、相談しやすい環境を整えていく。



<分析>

- ・③から⑧の嫌な思いをしていることを示す自分の状況については、「⑧お金を友達に貸したり、あげたりしている。」を除き、値が減少している。各学校における様々な取組により、いじめに向かわない態度が育まれてきているものと考えられる。金銭に係るトラブルについては、学年が上がるとともに、件数が増加している。発達に伴い、交友関係が広がること、遊ぶ場所の選択肢として様々な遊戯施設を利用することなどが一因として考えられる。お小遣いの使い方を考えさせる等、家庭と連携・協力した取組を推進していく必要がある。
- ・「⑨今されている嫌なことについて誰にも相談していない。」と回答している児童の割合は、顕著に減少している。引き続き様々な取組を通して、相談することの大切さを伝え、この割合の減少に努めていく。

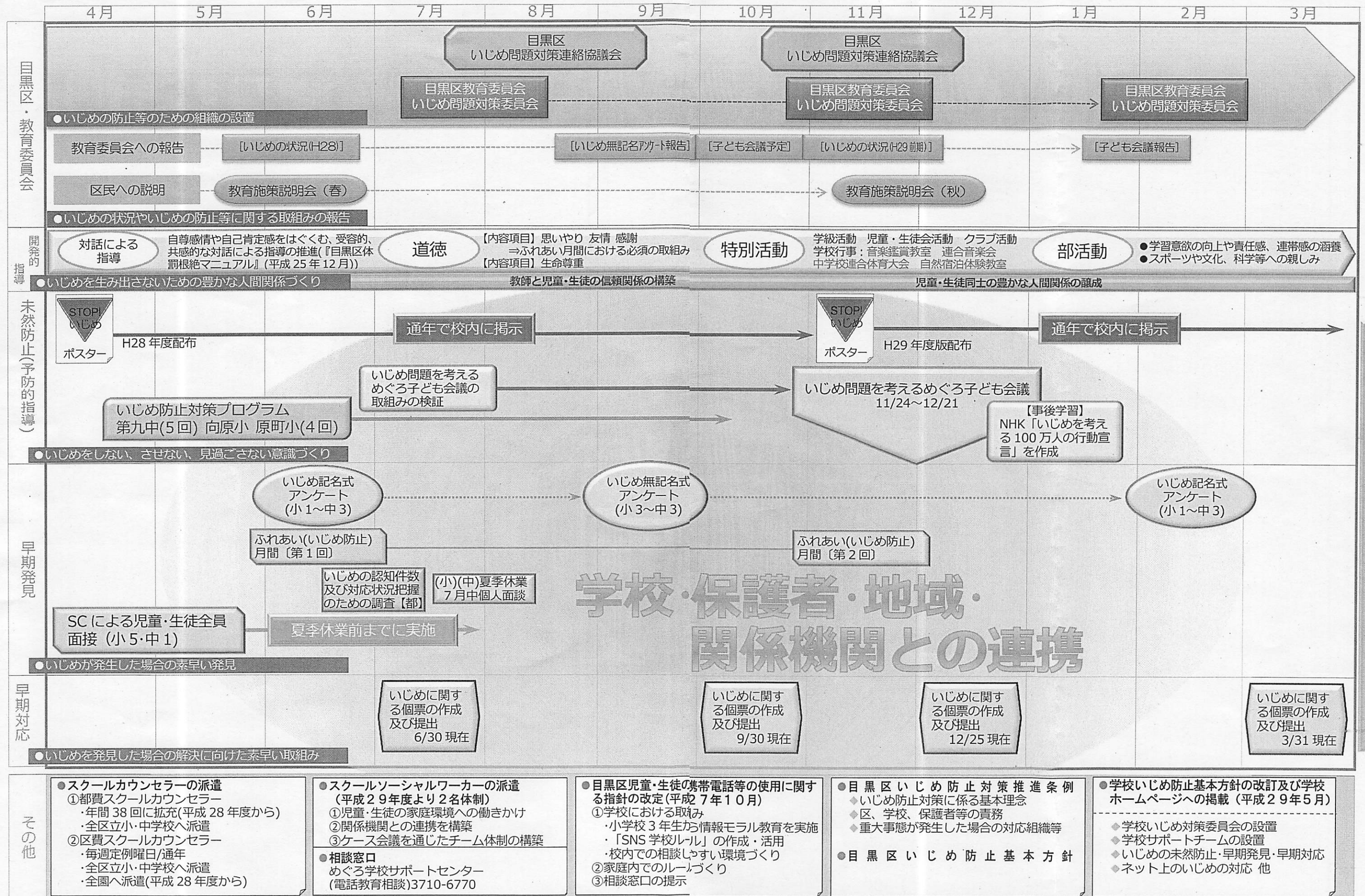


<分析>

- ・③から⑧の嫌な思いをしていることを示す自分の状況については、概ね値が減少している。いじめ問題に対する様々な取り組みが功を奏しているものと考えられる。「⑤メールやSNSなどに悪口や個人情報を書かれ、嫌な思いをしている。」と回答した生徒の割合は増加しているが、学年が上がるほど携帯電話やスマートフォンを持つ生徒が増えることを考慮すると、必ずしもトラブルの割合が増加しているとは言えない。
- ・第3学年におけるトラブルとしては、「⑧お金を友達に貸したり、あげたりしている。」の割合が最も多くなっている。小学校に比べ金額の上昇も懸念されるので、今後、金銭に係るトラブルの注意喚起等、取組を充実させていく必要がある。
- ・「⑨今されている嫌なことについて誰にも相談していない。」と回答している生徒の割合は、顕著に減少している。中学校第1学年の数値は小学校第6学年の値に比べ微増していることから、新しい環境での仲間づくりや教師との信頼関係を構築するための様々な取組を通して、相談しやすい環境を整えることで、この割合の減少に努めていく。

平成29年度 目黒区におけるいじめの防止等に関する取り組み

参考



児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

学校・保護者・地域・関係機関との連携